

令和元年度(2019年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・草野 充

1. 目的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010年度以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。

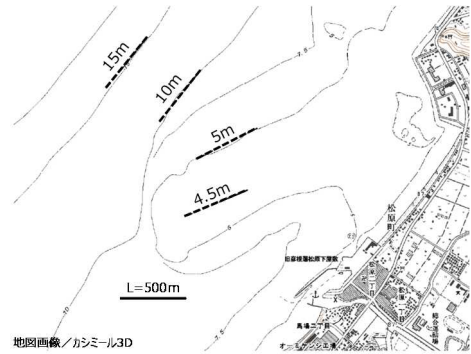


図1 松原漁場の水深別定線（破線）。

2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた（図1）。ほぼ毎月、調査用定量桁網（採取幅8cm、袋網の目開き10mm）を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2019年の肥満度は、前年の秋にほとんど回復がみられず、1月になって平均2.2%と上昇しはじめたものの、4月になって平均2.9%にとどまった。その後、浅い場所では6月に3.5%~4.2%まで上昇したが、10m以深では横ばいとなり、産卵直前の6月でも2.5%

と低い水準であった。8月には肥満度が平均1.8%に低下し、すべての水深で産卵があったと考えられるが、その落差から10m以深では前年にくらべて単位親貝あたりの産卵量は少なかったと思われる。

9月には水深10mで2017年8月に記録した過去最低の1.1%に次ぐ1.2%まで肥満度が低下した。10月には水深10mでのみやや肥満度が回復したが、この上昇は極端に痩せた個体のへい死によるものである可能性もある。

12月には平均1.7%と前年(1.8%)を下回ったが、1月には2.5%(2.2%)、3月には2.9%(2.7%)と前年をやや上回る速度で肥満度が回復した。

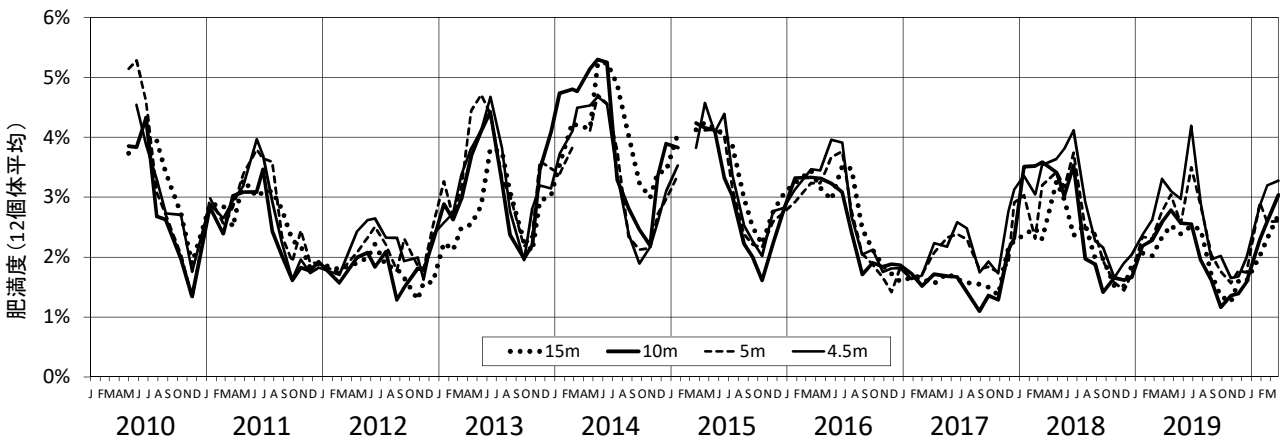


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

肥満度(%) = 貝の中身(軟体部)の乾燥重量 / 貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む) × 100
 本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。